

毎月11日は

防災を「考」える日



令和3年1月号

「雪崩災害に遭わないようにしましょう」

■ 雪崩とは？

「斜面上にある雪や氷の全部または一部が肉眼で識別できる速さで流れ落ちる現象」を言い、積雪が崩れて動き始める「発生区」と、発生した雪崩が通る「走路」、そして、崩れ落ちた雪が積み重なる「堆積（たいせき）区」からなっています。

また、雪崩によって堆積した雪を「デブリ」と呼びます。

■ 発生しやすい場所

- ・スキーの上級者コースと同程度の30度以上の傾斜面（特に35～45度が最も危険）
- ・「落石注意」の標識などがある所
- ・低木林やまばらな植生の斜面（笹や草に覆われた斜面などは裸地よりも発生しやすい）

〔「雪害では、どのような災害が起こるのか」(首相官邸ホームページ)を加工して作成〕



■ 防災基礎クイズ

Q 雪崩は大きく2つのタイプに分けられます。「表層（ひょうそう）雪崩」と何雪崩でしょう？

毎月11日は「防災を考える日」です。

震災の教訓や災害への日頃の備えなどについて、家庭や学校、職場、地域などで話し合ってみましょう。

■ 問い合わせ先／気仙沼市総務部危機管理課防災情報係

☎:0226-22-3402 FAX:0226-22-1467 E-mail:kikikanri@kesenuma.miyagi.jp

(財) 気仙沼市防災協会